【３】日常生活でのクルマの危険の感じ方

（３－１）戸外に出るときのクルマの危険の感じ方　　（A～C´群：大人全体への質問）

質問（A保育園･幼稚園の先生・B小学校の先生へ）外を歩かせるとき（校外を歩くとき）に、道路などで交通安全上の危険や苦労を感じますか。
1:いつも感じる　2:ときどき感じる　3:あまり感じない

質問（C一般保護者・C´心身ハンディ児の保護者等へ）家の周辺や、通園・通学路(園や学校・作業所・勤務先への往復路)に、クルマの危険はありますか。
1:大いにある　2:ある　3:少しある　4:ほとんどない　5:全くない

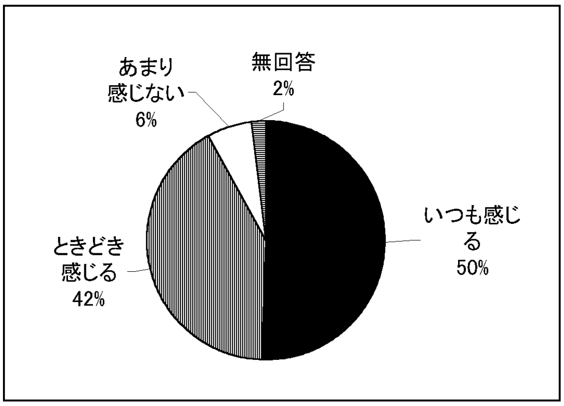
★★…　ほとんどの大人がクルマの危険を感じている　…★★

先生たちが子どもを連れて外を歩かせるときの交通安全上の危険や苦労は、保育園・幼稚園の先生では半数の人が「いつも」感じており、「ときどき」感じる人も合わせると９割以上になる。小学校の先生の場合は、保育園・幼稚園の先生より危険や苦労の感じ方がやや少ないが、これは、外出回数が少ないためだと思われる。なお、周辺交通量の多さと危険の感じ方との間に、関連は見られなかった。

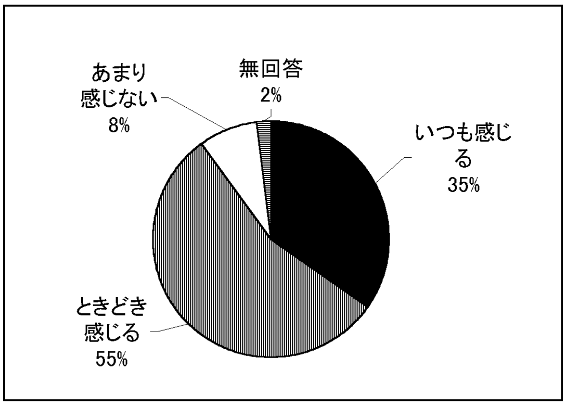
保護者も、家周辺などにクルマの危険が「大いにある」と感じている人は半数近くおり、「ある」と合わせると８割にのぼる。子どもを取り巻く交通環境は危険が非常に多いことがわかる。

（図３－１－A）園外、校外に出るときの交通安全上の危険や苦労の感じ方

（A群：保育園･幼稚園の先生の回答）

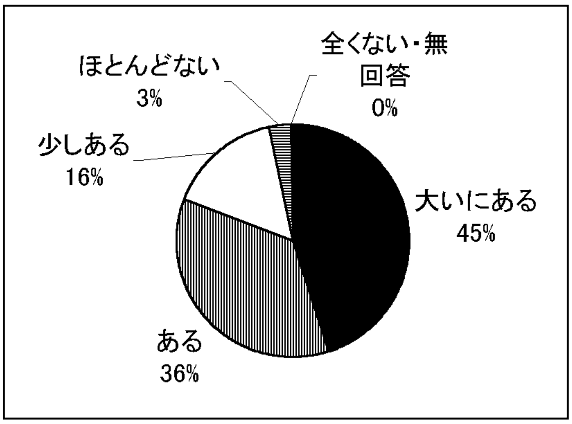


（B群：小学校の先生の回答）



（図３－１－B）家周辺や通園・通学路でのクルマの危険の感じ方

（C群：一般保護者とC´群：心身ハンディ児の保護者等の回答を合計）



（３－２）子どもたちのクルマの危険の感じ方　（Ｄ群：小学生・Ｄ´群：心身ハンディ児への質問）

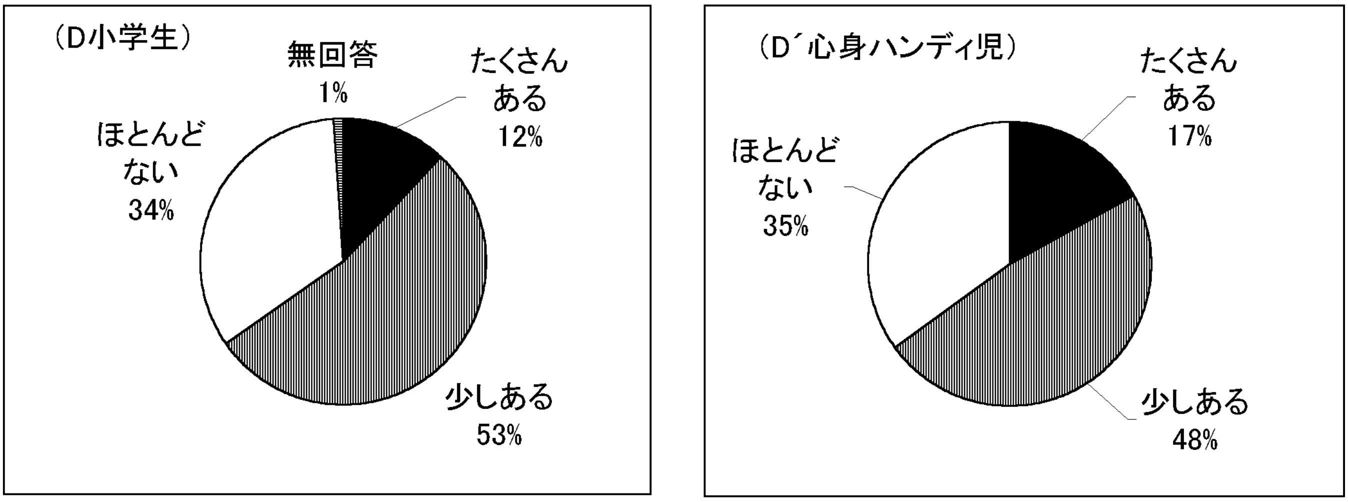
質問　学校の行き帰りやどこかに出かけるときの行き帰りに車の危ないところはありますか。
（あてはまるものに○を）
1:たくさんある　2:少しある　3:ほとんどない。

★★…　子どもたちの危険意識は大人より薄い　…★★

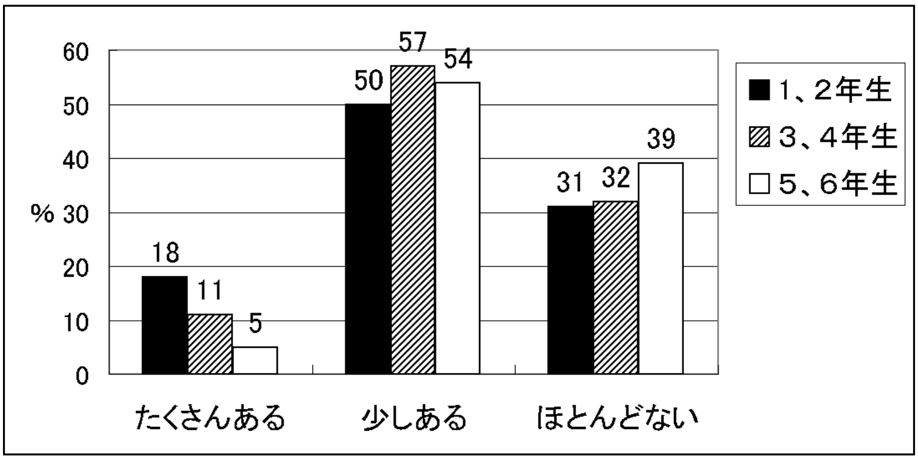
子どもたちにクルマの危険の有無を尋ねた回答では、小学生は「少しある」が半数以上、「たくさんある」は１割強だったが、学年別にみると、学年が低いほど「たくさんある」と答えた子どもの割合は高い。心身ハンディ児の場合も「たくさんある」の割合が少し高い。

このように、危険の感じ方は大人より薄いが、具体的な危険についての質問（ｐ２１～）には少なからぬ反応があるので、「ある・なし」という漠然とした質問ではピンと来なかった子も多かったのではないかと感じられる。

（図３－２－A）クルマの危険な場所の有無に対する小学生らの感じ方（D群・D´群の回答より）



（図３－２－B）小学生の学年別に見るクルマの危険の感じ方

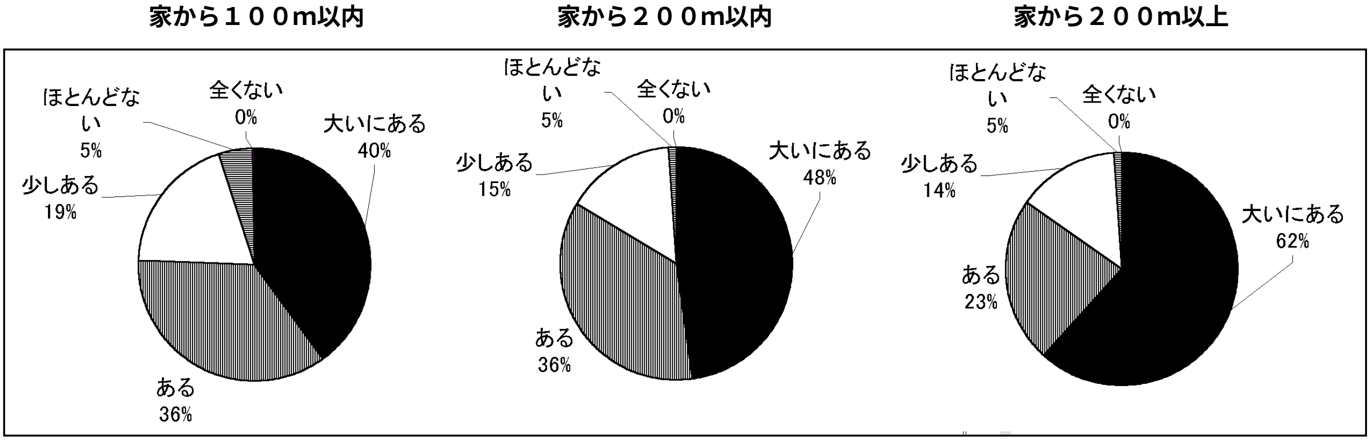


★★…　遊び場までが遠いほど、クルマの危険が心配に　…★★

クルマの危険の感じ方についての一般保護者の回答を、家から遊び場までの距離の違いで見ると、遊び場が遠い場合ほどクルマの危険が「大いにある」と答えた割合が高くなっている。つまり遊び場に行くまでの道にも危険があるということで、この点を考えると、ｐ１４に見るように、幼児の３割以上が家の近くに遊び場のない現状は、やはり気がかりである。

ただし、子どもが家の近くで交通事故に遭う率も大変高く（右ページ参照）、近くにあればそれで安心、とはかならずしも言いきれない現実もある。

（図３－補）遊び場までの距離による危険の感じ方（Ｃ群：一般保護者の回答より）



【1】～【3】までの回答に関連して（会の所感）

■■　子どもたちがのびのびと遊んだり歩いたりできる環境が乏しい　■■

子どもにとって、戸外活動は心身の健やかな発達を助け、情操を養い、社会性を身につけさせるなど多くの意義があります。しかし、その子どもたちが歩く戸外は、交通の危険が多いことが回答に示されています。

1950 年代からの国土開発やモータリゼーションによって、子どもの遊び場は急激に減り、やがてその代償として都市部を中心に公園が増設されました。しかし、子どもが安心して遊べる家の近くの遊び場は少なくなり、回答にもあるように遊び場への往復路にもクルマの危険がつきまとっています。

もっとも、家の近くであっても安心はできません。下記の参考データ１に見るように、子どもの交通死傷事故は自宅の近くでも多くおきているからです。

安全に行き来したり遊んだりできる環境が保障されていない現状は、子どもの命の安全はもとより、心身の健全な成長にとっても、たいへん憂慮すべきことです。

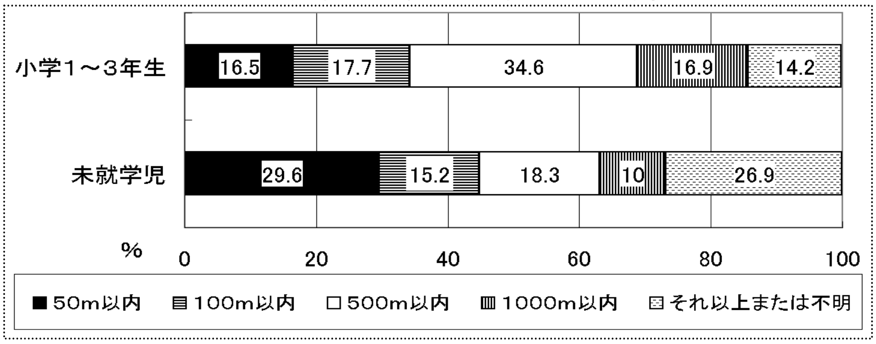
参考データ１

●●●　自宅からの距離別に見る歩行中の子どもの死傷事故　●●●

交通死傷事故にあった幼児（未就学児）の半数近く（45%）は自宅から 100m以内で、しかも３０%は 50m以内で事故にあっている。小学１～３年生の場合は行動範囲が広がるためか、自宅から 500m以内での事故が35%と多くなっているが、100m以内での事故も 35%ある。小学１～３年生の歩行中の死傷事故の３７%は、学校の登下校中におきている。

参考：『交通統計』平成 14 年版（財）交通事故総合分析センター

自宅からの距離別に見る歩行中の子どもの死傷事故



『交通統計』平成 14 年版（財）交通事故総合分析センターより作図

通学路もクルマがいっぱい…